

令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験における
大学推薦制度 実施要項

1 目的

この要項は、大学、短期大学、大学院または教職大学院に在籍し、成績が優秀で優れた人間性を有し、教員として実践力を発揮することが期待でき、学長等の推薦を受けた者に対し、大学推薦制度を実施するにあたり、必要な事項を定める。

2 大学推薦制度の対象

- (1) 小学校教員区分
- (2) 理科、英語に優れた力量をもつ小学校教員区分
- (3) 中学校（美術・技術・家庭）教員区分
- (4) 中学校・高等学校（外国語（英語））教員区分
- (5) 特別支援学校教員区分
- (6) 教職大学院区分（対象となる校種等・教科については教職大学院要領参照）
- (7) 障がい者区分（対象となる校種等・教科については障がい者要領参照）

3 選考基準等

試験の実施内容等については、別途要領を定める。

令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験
大学推薦制度 中学校・高等学校 外国語（英語）教員 要領

1 目的

この要領は、令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験における大学推薦制度のうち、大学（大学院及び教職大学院を含む）から推薦を受ける中学校・高等学校（英語）教員区分に係る選考について必要な事項を定める。

2 選考の対象となる校種・教科

中学校 外国語（英語）
高等学校 外国語（英語）

3 推薦申込みの対象大学

中学校・高等学校教諭一種（専修）免許状（外国語（英語））の課程認定を受けている大学等

4 推薦の基準

神奈川県公立中学校、高等学校（横浜市立、川崎市立及び相模原市立を除く）の教員を第1希望とし、次の(1)～(5)を全て満たす者

- (1) 令和7年度に大学等を卒業（修了）見込みの者
- (2) 中学校教諭一種（専修）免許状（外国語（英語））、高等学校教諭一種（専修）免許状（外国語（英語））所有者又は令和8年3月31日までに当該免許を確実に取得できる見込みの者
- (3) 次の基準に該当し、当該大学の学長、学部長又は院長が推薦する者
 - ア 神奈川県の「めざすべき教職員像」（別紙資料）に照らして、神奈川県公立学校教員としての適性を有し、かつ教員志望の動機が明確である者
 - イ 学業成績優秀（在学時の成績「優」（80～100点）相当の数が50%以上（小数第1位を切り捨て））の者
 - ウ TOEIC（IPテストは除く）730点以上、TOEFL-iBT（インターネット版 TOEFL）80点以上又は実用英語技能検定（公益財団法人日本英語検定協会）準1級以上のいずれか1つのスコアや級を取得していること（申込期限令和6年12月12日までに要件を満たし、かつ有効なものに限る）
- (4) 昭和39年4月2日以降に出生した者
- (5) 地方公務員法第16条（欠格条項）及び学校教育法第9条（欠格事由）に該当しない者

5 推薦人数

特に人数枠を設けない。

6 推薦手続等

(1) 提出書類

- ア 送付状（別添様式を参照のこと）
- イ 「推薦書」（別添様式を使用のこと）
- ウ 成績証明書（学校所定の様式）
- エ 4 推薦の基準(3)ウを証明する書類の写し
- オ 「論文用紙」（別添様式を使用のこと）に記載の論文題に関する800字程度の論文（本人自筆）

- カ 「受験申込書」(別添様式を使用のこと)(本人自筆)
- キ 「受験者カード」(別添様式を使用のこと)(本人自筆)
- ク 本人への受験票等送付のための返信用封筒(角形2号)

※ 180円分の郵便切手を貼付し、本人への送付先を明記すること。

(2) 申込方法

各大学において関係書類を取りまとめ、簡易書留により提出する。

封筒(角形2号)の表面に「大学推薦受験申込書在中」と朱書きの上、取りまとめを担当する部課、担当者名及び連絡先を明記する。

(3) 申込期間

令和6年11月18日(月)～令和6年12月12日(木)(必着)

(4) その他

模擬授業のテーマと評価の観点及び個人面接の評価の観点については別紙を参考にすること。

7 第1次試験(論文試験を含む)

大学からの推薦書、在学時の成績、4 推薦の基準(3)ウのスコアや級及び課題論文により選考する。

選考結果は、大学に1月下旬までに通知する。令和7年1月24日(金)までに届かない場合は神奈川県教育委員会 教職員人事課 教職員採用グループ(045-210-8190)まで連絡すること。

8 第2次試験(論文試験を除く)

試験内容については、模擬授業、個人面接、実技試験とする。

実技試験の内容については別紙を参考にすること。

第2次試験の詳細は、第1次試験合格者に別途通知する。

9 第2次試験の結果発表について

令和7年3月19日(水)に大学宛と本人宛に送付する。ホームページでの公表は行わない。3月28日(金)までに届かない場合は神奈川県教育委員会 教職員人事課教職員採用グループ(045-210-8190)まで連絡すること。

10 採用

(1) 原則として、大学推薦制度による採用候補者名簿の登載者(第2次試験合格者)は、令和8年4月1日付けで、神奈川県内公立中学校・高等学校(横浜市立、川崎市立及び相模原市立を除く)での採用とする。大学院進学等による採用期日の延期については、令和7年度実施 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験(夏期試験)実施要項(令和7年4月公開予定)を参照すること。

(2) 日本国籍を有しない者は、任用期限を付さない常勤講師として採用する。

11 その他

不合格になった者でも令和7年度実施 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験(夏期試験)に申し込むことができる。その際には、他の受験者と同様、申込み手続が必要となる。

令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験
（大学推薦制度 中学校・高等学校 外国語（英語）教員区分）について

この試験について、次のとおりお知らせいたします。

1 募集校種・教科

校種	教科
中学校	外国語（英語）
高等学校	外国語（英語）

2 主な日程について（予定）

- (1) 要領送付 令和6年9月下旬
- (2) 申込期間 令和6年11月18日（月）～令和6年12月12日（木）（必着）
- (3) 第1次試験の結果送付日 令和7年1月中旬
- (4) 第2次試験実施日 令和7年2月中旬
※模擬授業、個人面接で1日。実技試験で1日の計2日間で実施します。
- (5) 合否結果通知送付日 令和7年3月19日（水）発送

3 模擬授業について

- (1) テーマについて

中学校	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒一人ひとりの確かな学力の向上をめざした授業
高等学校	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、問題発見・解決能力を育むことをめざした授業

内容及び留意点は次のとおりです。

- 受験する校種・教科の授業を行ってください。
- 授業は研修室を教室と見立てて行います。机や椅子の移動、着替え、照明の消灯などはできません。また、会場の電源は使用できません。なお、危険物（火気、劇薬等）の持込は禁止します。通信機能も使用禁止です。
- テーマに沿った1単位時間の授業計画を立て、指導案（注意参照）を作成し、導入から展開にかけての最初の10分間（準備、片付けを含む）を模擬授業として行います。
- 同じグループの受験者が生徒役になります。授業者から発問し、生徒役が答えてもかまいません。ただし、生徒役の受験者から質問をしたり、意見を言ったりすることはできません。
（注意） 指導案作成等の詳細は、第1次試験合格者に郵送でお知らせしますが、A4サイズの紙両面1枚にまとめてください。表面に英語の指導案、裏面に日本語の指導案を作成し、1枚にまとめてください。

(2) 模擬授業の評価の観点について

模擬授業は、次の観点で評価し、総合的に評定します。

○指導力・表現力

- ・板書・指示は的確か
- ・教材作成に創意工夫はあるか
- ・柔軟な対応ができているか
- ・子どもの意欲を引き出す構成か

○姿勢・態度

- ・活気や熱意があるか
- ・生徒と向き合っているか
- ・安心感があるか
- ・誠実に取り組んでいるか

4 個人面接の評価の観点について

個人面接は次の観点で評価し、総合的に評定します。

○姿勢・態度

- ・社会人としてのマナーを身につけているか
- ・落ちついていないか
- ・まじめに対応しているか
- ・礼儀正しいか
- ・明朗快活か

○判断力・表現力

- ・質問を正しく理解しているか
- ・考えていることを十分に述べているか
- ・話はわかりやすいか
- ・音声は明瞭か
- ・用語は適切か

○堅実性・信頼感

- ・高い倫理観があるか
- ・計画性があるか
- ・公平・公正であるか
- ・肯定的に物事を捉えられているか
- ・情緒は安定しているか

○協調性・社会性

- ・リーダーシップがあるか
- ・仲間と協力して活動できるか
- ・保護者・地域の方と協力して活動できるか
- ・組織の一員として行動できるか
- ・他者を共感的に理解できるか

○専門性・多様性

- ・教育に対する情熱があるか
- ・自ら学ぶ姿勢があるか
- ・得意分野の向上と活用について考えているか
- ・豊富で多様な経験を教職に生かせるか
- ・決断力・主体性があるか

○適応性・使命感

- ・豊富な生活体験があるか
- ・子どもへの教育的愛情があるか
- ・粘り強く指導することができるか
- ・職務についての自覚があるか
- ・人権に対する認識を持っているか

5 実技試験について

実施日は、令和7年2月15日(土)を予定しています。日程及び会場等の詳細は、第1次試験の合格者に通知します。

校種・教科	実技試験の内容
中学校・高等学校 (外国語(英語)) 2月15日(土)	英語コミュニケーション能力試験(英語教育や英語教授法等についての意欲、知識、技能を含む)

※ 面接試験等を欠席、途中棄権した者は、実技試験を受けることはできません。

(注意) 電話等による問合せには一切お答えできません。

令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験 大学推薦制度 障がい者 要領

1 目的

この要領は、令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験における大学推薦制度のうち、大学（大学院、教職大学院及び専攻科を設置する短期大学を含む）から推薦を受ける障がい者区分に係る選考について必要な事項を定める。

2 選考の対象となる校種等・教科（詳細については、同封の別紙を参照すること）

- ・小学校
- ・中学校（平成29年3月告示 中学校学習指導要領 第2章 各教科に該当する教科）
- ・高等学校（平成30年3月告示 高等学校学習指導要領 第2章 各学科に共通する各教科に該当する教科 ただし、第5節 理科（地学）、第7節 芸術（工芸・書道）及び第11節 理数は除く）
- ・特別支援学校
- ・養護教諭
- ・栄養教諭

3 推薦申込みの対象大学

教諭一種（専修）免許状の課程認定を受けている大学等

4 推薦の基準

神奈川県公立学校（横浜市立、川崎市立及び相模原市立を除く）の教員を第1希望とし、次の

(1)～(6)を全て満たす者

(1) 令和5年度以降に大学等を卒業した者又は令和7年度に大学等を卒業（修了）見込みの者

(2) 受験しようとする校種等・教科の教諭一種（専修）免許状所有者又は令和8年3月31日までに当該免許を確実に取得できる見込みの者

(3) 次の基準に該当し、当該大学の学長、学部長又は院長が推薦する者

ア 神奈川県の「めざすべき教職員像」（別紙資料）に照らして、神奈川県公立学校教員としての適性を有し、かつ教員志望の動機が明確である者

イ 学業成績優秀（在学時の成績「優」（80～100点）相当の数が50%以上（小数第1位を切り捨て））の者

ウ 中学校・高等学校 外国語（英語）を希望する者は、TOEIC（IPテストは除く）730点以上、TOEFL-iBT（インターネット版 TOEFL）80点以上又は実用英語技能検定（公益財団法人日本英語検定協会）準1級以上のいずれか1つのスコアや級を取得していること（申込期限令和6年12月12日までに要件を満たし、かつ有効なものに限る）

(4) 次のいずれかに該当する者（申込期限令和6年12月12日までに要件を満たし、かつ第2次試験時に有効なものに限る）

・身体障害者手帳の交付を受けている人

・身体障害者福祉法第15条の規定により都道府県知事の定める医師（以下「指定医」という）、労働安全衛生法第13条に規定する産業医又は人事院規則10-4（職員の保健及び安全保持）第9条第1項に規定する健康管理医その他これに準ずる者が作成した、障害者の雇用の促進等に関する法律別表に掲げる身体障害を有する旨の診断書又は意見書（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう若しくは直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫又は肝臓の機能の障害については、指定医が作成した診断書又は意見書に限る）の交付を受けている人

・都道府県知事、政令指定都市市長又は中核市市長が発行する療育手帳の交付を受けている人

・児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター、精神保健指定医、障害者職業センターにより知的障害があると判定された人

・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人

(5) 昭和39年4月2日以降に出生した者

(6) 地方公務員法第16条（欠格条項）及び学校教育法第9条（欠格事由）に該当しない者

5 推薦人数

特に人数枠を設けない。

6 推薦手続等

(1) 提出書類

ア 送付状（別添様式を参照のこと）

- イ 「推薦書」(別添様式を使用のこと)
- ウ 成績証明書(学校所定の様式)
- エ 「身体障害者手帳」、「療育手帳」又は「精神障害者保健福祉手帳」等の写し
- オ 「論文用紙」(別添様式を使用のこと)に記載の論文題に関する800字程度の論文(原則本人自筆。代筆が適当な場合は、理由書を添付)
- カ 「受験申込書」(別添様式を使用のこと)(原則本人自筆)
- キ 「受験者カード」(別添様式を使用のこと)(原則本人自筆)
- ク 本人への受験票等送付のための返信用封筒(角形2号)
※ 180円分の郵便切手を貼付し、本人への送付先を明記すること。
- ケ 4 推薦の基準(3)ウを証明する書類の写し(中学校・高等学校 外国語(英語)の希望者のみ)

(2) 申込方法

各大学において関係書類を取りまとめ、簡易書留により提出する。

封筒(角形2号)の表面に「大学推薦受験申込書在中」と朱書きの上、取りまとめを担当する部課、担当者名及び連絡先を明記する。

(3) 申込期間

令和6年11月18日(月)～令和6年12月12日(木)(必着)

(4) その他

試験の実施にあたっては、必要に応じて点字、拡大文字や手話通訳者の準備等をする。また、障がいの種類や程度によって実技試験の一部を免除し、代わりに他の試験を行うなどの対応も行う。

模擬授業のテーマと評価の観点及び個人面接の評価の観点については別紙を参考にすること。

7 第1次試験(論文試験を含む)

大学からの推薦書、在学時の成績、4 推薦の基準(3)ウのスコアや級(中学校・高等学校 外国語(英語)の希望者のみ)及び課題論文により選考する。

選考結果は、大学に1月下旬までに通知する。令和7年1月24日(金)までに届かない場合は神奈川県教育委員会 教職員人事課 教職員採用グループ(045-210-8190)まで連絡すること。

8 第2次試験(論文試験を除く)

試験内容については、模擬授業、個人面接、実技試験(一部の教科で実施)とする。

実技試験の内容については別紙を参考にすること。

第2次試験の詳細は、第1次試験合格者に別途通知する。

9 第2次試験の結果発表について

令和7年3月19日(水)に大学宛と本人宛に送付する。ホームページでの公表は行わない。

3月28日(金)までに届かない場合は神奈川県教育委員会 教職員人事課教職員採用グループ(045-210-8190)まで連絡すること。

10 採用

(1) 原則として、大学推薦制度による採用候補者名簿の登載者(第2次試験合格者)は、令和8年4月1日付けで、神奈川県内公立学校(横浜市立、川崎市立及び相模原市立を除く)での採用とする。大学院進学等による採用期日の延期については、令和7年度実施 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験(夏期試験)実施要項(令和7年4月公開予定)を参照すること。

(2) 日本国籍を有しない者は、任用期限を付さない常勤講師として採用する。

(3) 採用後の配属については、障がいの種類や程度を勘案して配属する。

11 その他

不合格になった者でも令和7年度実施 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験(夏期試験)に申し込むことができる。その際には、他の受験者と同様、申込み手続が必要となる。

合格者には、国へ障がい者雇用状況を報告するための確認がある。

令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験
(大学推薦制度 障がい者区分) について

この試験について、次のとおりお知らせいたします。

1 募集校種等・教科 (予定)

校種等	教科 (科目)
小学校	
中学校	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、外国語(英語)
高等学校	国語、地理歴史・公民(日本史、世界史、地理、公民)、数学、情報、理科(物理、化学、生物)、音楽、美術、保健体育、家庭、外国語(英語)
特別支援学校	
養護教諭	
栄養教諭	

2 主な日程について (予定)

- (1) 要領送付 令和6年9月下旬
- (2) 申込期間 令和6年11月18日(月)～令和6年12月12日(木) (必着)
- (3) 第1次試験の結果送付日 令和7年1月中旬
- (4) 第2次試験実施日 令和7年2月中旬
- (5) 合否結果通知送付日 令和7年3月19日(水) 発送

3 模擬授業について

(1) テーマについて

小学校	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、児童一人ひとりの確かな学力の向上をめざした授業
中学校	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒一人ひとりの確かな学力の向上をめざした授業
高等学校	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、問題発見・解決能力を育むことをめざした授業
特別支援学校	各教科等の特質をふまえ、児童・生徒等一人ひとりの発達の段階等に応じたキャリア発達を促すことにつながる授業
養護教諭	児童・生徒等の現状と課題を養護教諭の視点でとらえ、豊かな人間性の育成や健康・体力づくりをとおして、自分や相手、一人ひとりを尊重することを大切に授業
栄養教諭	児童・生徒等の現状と課題を栄養教諭の視点でとらえ、豊かな人間性の育成や健康・体力づくりをとおして、自分や相手、一人ひとりを尊重することを大切に授業

内容及び留意点は次のとおりです。

- 受験する校種等・教科 (科目) 等の授業を行ってください。
- 授業は研修室を教室と見立てて行います。机や椅子の移動、着替え、照明の消灯などはできません。また、会場の電源は使用できません。なお、危険物 (火気、劇薬等) の持込は禁止します。通信機能も使用禁止です。

- テーマに沿った1単位時間の授業計画を立て、指導案（注意参照）を作成し、導入から展開にかけての最初の10分間（準備、片付けを含む）を模擬授業として行います。
- 同じグループの受験者が児童・生徒役になります。授業者から発問し、児童・生徒役が答えてもかまいません。ただし、児童・生徒役を受験者から質問をしたり、意見を言ったりすることはできません。

（注意） 指導案作成等の詳細は、第1次試験合格者に郵送でお知らせしますが、A4サイズの紙片面1枚にまとめてください。受験教科が外国語（英語）の方は、表面に英語の指導案、裏面に日本語の指導案を作成し、両面1枚にまとめてください。

（2）模擬授業の評価の観点について

模擬授業は、次の観点で評価し、総合的に評定します。

○指導力・表現力

- ・板書・指示は的確か
- ・教材作成に創意工夫はあるか
- ・柔軟な対応ができているか
- ・子どもの意欲を引き出す構成か

○姿勢・態度

- ・活気や熱意があるか
- ・児童・生徒と向き合っているか
- ・安心感があるか
- ・誠実に取り組んでいるか

4 個人面接の評価の観点について

個人面接は次の観点で評価し、総合的に評定します。

○姿勢・態度

- ・社会人としてのマナーを身につけているか
- ・落ちついているか
- ・まじめに対応しているか
- ・礼儀正しいか
- ・明朗快活か

○判断力・表現力

- ・質問を正しく理解しているか
- ・考えていることを十分に述べているか
- ・話はわかりやすいか
- ・音声は明瞭か
- ・用語は適切か

○堅実性・信頼感

- ・高い倫理観があるか
- ・計画性があるか
- ・公平・公正であるか
- ・肯定的に物事を捉えられているか
- ・情緒は安定しているか

○協調性・社会性

- ・リーダーシップがあるか
- ・仲間と協力して活動できるか
- ・保護者・地域の方と協力して活動できるか
- ・組織の一員として行動できるか
- ・他者を共感的に理解できるか

○専門性・多様性

- ・教育に対する情熱があるか
- ・自ら学ぶ姿勢があるか
- ・得意分野の向上と活用について考えているか
- ・豊富で多様な経験を教職に生かせるか
- ・決断力・主体性があるか

○適応性・使命感

- ・豊富な生活体験があるか
- ・子どもへの教育的愛情があるか
- ・粘り強く指導することができるか
- ・職務についての自覚があるか
- ・人権に対する認識を持っているか

5 実技試験について

実施日は、令和7年2月15日（土）～2月17日（月）を予定しています。日程及び会場等の詳細は、第1次試験の合格者に通知します。

校種・教科	実技試験の内容
中学校・高等学校 （音楽） 2月15日（土）	<p>「リコーダーによる独奏」（暗譜演奏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーはソプラノリコーダー又はアルトリコーダーのいずれかとします。 ・演奏する曲は、中学校又は高等学校の音楽の教科書の中から、楽器の特徴を生かした表現が十分にできるものを各自で選曲してください。 ・演奏する曲の楽譜を2部用意し、当日持参してください（使用するリコーダーの音域に合わせて移調して演奏する場合は、その教科書の写しも提出してください）。 <p>「弾き歌い」（楽譜を見て歌うことも可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の曲のピアノでの弾き歌いを行います。 ○「O sole mio」 G. Capurro 作詞/E. di Capua 作曲 ・調については自由とします。 ・使用する伴奏譜については自由とします。
中学校・高等学校 （美術） 2月15日（土）	<p>「素描着彩」鉛筆によりモチーフを描き、水彩絵の具等で着彩</p> <p>「立体」与えられたテーマについて、配付された紙等を用いて立体的に構成</p>
中学校・高等学校 （保健体育） 2月17日（月）	<p>次の4種目を実施します。</p> <p>「バスケットボール」「柔道」「マット運動」「水泳（クロール及び平泳ぎ）」</p>
中学校 （技術） 2月15日（土）	<p>技術分野の内容に関する基礎的実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領「第8節 技術・家庭」より「第2 各分野の目標及び内容」[技術分野]「2 内容」の「A 材料と加工の技術」に関するもの（中学校技術・家庭科分野の検定済教科書に掲載されている程度の課題）
中学校・高等学校 （家庭） 2月15日（土）	<p>「衣生活」に関する基礎的実技</p>
中学校・高等学校 （外国語（英語）） 2月15日（土）	<p>英語コミュニケーション能力試験（英語教育や英語教授法等についての意欲、知識、技能を含む）</p>

※ 面接試験等を欠席、途中棄権した者は、実技試験を受けることはできません。

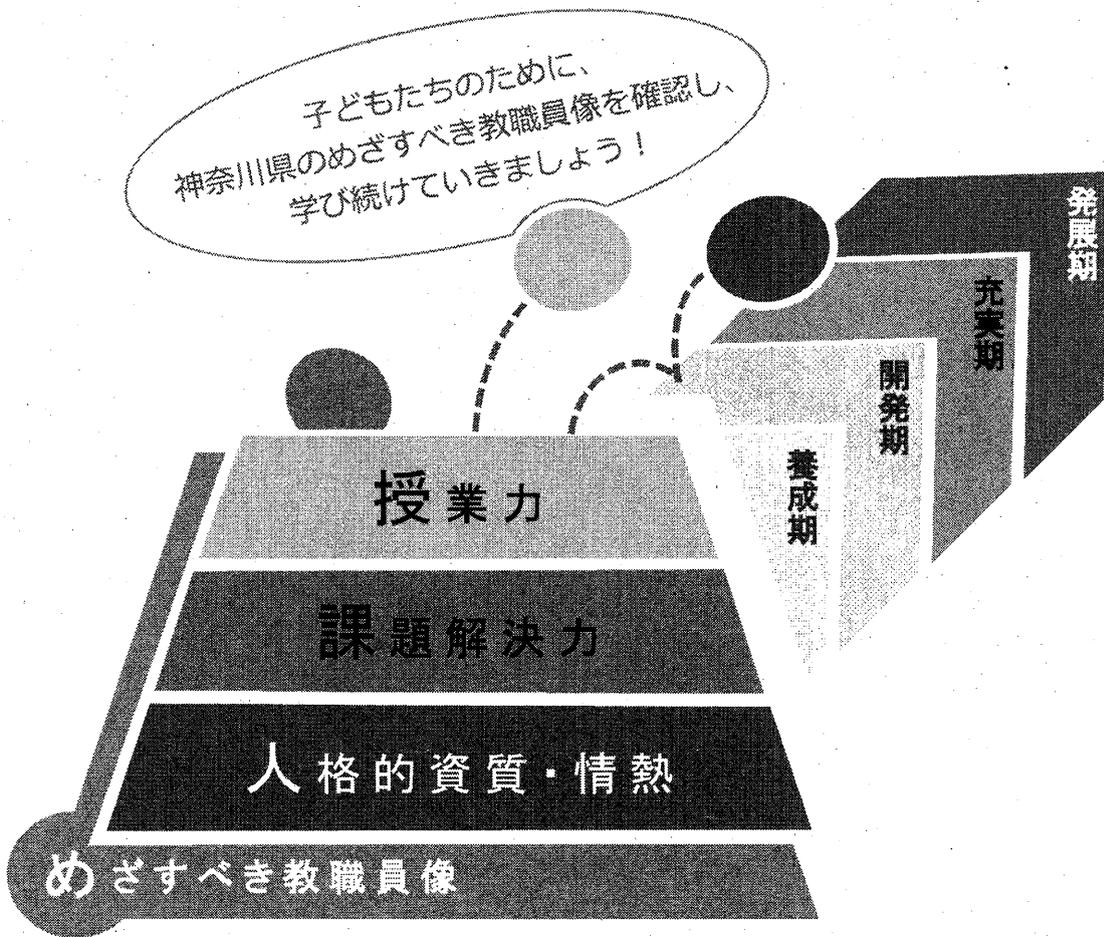
（注意）電話等による問合せには一切お答えできません。



神奈川県
教育委員会

神奈川県のめざすべき教職員像の実現に向けて

～ 校長及び教員の資質向上に関する指標 ～



神奈川県教育委員会では、本県の教育の総合的指針である「かながわ教育ビジョン」の重点的な取組み「VI. 意欲と指導力のある教職員の確保・育成と活力と魅力にあふれた学校づくり」を推進するため、「教職員人材確保・育成計画」の中で、神奈川県における「めざすべき教職員像」を明らかにしています。

令和5年1月(改定)
神奈川県教育委員会

神奈川県をめざすべき教職員像の実現に向けて

開発期から発展期のどの段階に該当するかについては、標準的なものを示しています。

【※】わかりやすい授業
わかる喜びが実感できる「主体的・対話的で深い学び」につながる授業

めざすべき教職員像

13の教職員像について、
ステージごとに
学び続けていきましょう！

授業力

子どもが自ら取り組む、
【※】わかりやすい授業の実践

指導力

課題解決力

子どもや社会の変化による課題の把握と解決

- 子どものやる気を引き出し、意欲を高めることができる
- 【※】わかりやすい授業の実践ができる
- 高い集団指導の力をもち、望ましい学級づくりができる
- 授業研究を生かした校内研修に、進んで取り組むことができる
- 子どもをよく理解し、多様な教育的ニーズに対して適切に対処・指導できる
- 得意分野をもち、個性豊かで、連携・協力しながら指導できる
- 豊かな創造力をもち、新たな課題へ積極的に挑戦する意欲や実行力をもっている
- 教職員全体と協力し、学校全体を意識しながら組織的に取り組むことができる
- 保護者、地域の人々と協力して取り組むことができる

【養成期】 出会い、学ぶ

主に、教職課程で学ぶ学生
教職と出会い、学校と出会い、教師という仕事に触れるとともに、教育の歴史・制度について学び、教職に対する理解や認識をもつ。

【開発期】 学び、高める

主に、教職経験5年程度までの教員
教師という仕事に向き合い、あるべき姿や役割について学びながら指導力を高め、信頼される教職員をめざす。

【充実期】 広げ、分かち合う

教職経験5～20年(30～45歳)程度の教員
様々な教育活動を通して視野を広げ、経験を同僚教職員と共有するなど、学校運営の中核的な存在として、より良い学校づくりを進める。

【発展期】 伝え、支える

教職経験約20年(約45歳)以上の教員及び管理職
学校づくりや教育活動をリードし、同僚教職員・部下教職員の模範となり、リーダーシップを発揮し、学校を動かす、支え、発展させる。

【養成期から発展期までのすべての時期に共通して身に付けるべき項目】
「カリキュラム・マネジメント」を踏まえた、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりへの理解を深め、ICTや情報・教育データ等を効果的に用いながら実践している。

教科指導に必要な知識や子どもの意欲を引き出す指導法を理解している。

わかる喜びを与える子ども主体の授業づくりと学習評価の基礎、校種間の教科の系統性を理解している。

学級担任や教科担任の役割や基本的な仕事内容について理解している。

学習指導案作成や教材作成の基本的な手法について理解している。

発達の段階や生徒の実態に応じた指導法を身に付け、学びに向かう力を育成するための工夫をしている。

校種間の教科の系統性を踏まえ、子どもの実態に応じた教材・指導法による授業を行い、学習評価を指導の改善に生かしている。

子どもの個性を理解し、互いに認め合い高め合える学級集団を育てている。

常に自ら学び続け、校内研修に積極的に参加して、授業改善に努めている。

学びに向かう力を育成するための授業を実践し、同僚教職員と共有し、改善を図っている。

指導と評価の一体化のもと、子どもの実態を踏まえた授業研究を行い、その成果を校内で共有している。

学級や学年を越えて、同僚教職員と協力し、望ましい集団を育てている。

同僚教職員と授業研究を主導し、校外の研究成果を授業改善に生かしている。

学びに向かう力を育成するための指導法について、学校全体で共有を図り、授業研究を推進している。

指導と評価の一体化を踏まえた組織的な授業改善を推進している。

学校全体の子どもの実態を把握し、組織的な支援体制を構築している。

自校の教育目標に基づく授業研究を推進し、その成果の校外での活用を中心となっている。

・管理職については、向上をめざす資質として「授業力」を扱いません。

【養成期から発展期までのすべての時期に共通して身に付けるべき項目】

新たな課題や教育的ニーズを多面的・多角的に分析・把握するとともに、神奈川の支援教育やインクルーシブ教育等についても理解し、推進している。

子どもの発達の段階とその特徴や、カウンセリングマインドについて理解している。

自分の得意分野を理解し、その向上と教育への活用について考えをもっている。

教育における新たな課題や動向に関心をもち、理解している。

教職員全員がチームとして機能する際の留意点と期待される効果について理解している。

保護者や地域の人々、心理や福祉等の外部専門家との連携・協働の重要性を理解している。

教育的ニーズに応じた指導法を学び、カウンセリングマインドをもって子どもに寄り添い適切に対処している。

個々の特性に応じた能力を高め、組織の中で有効に役立てている。

豊かな創造力とともに、新たな課題へ挑戦する意欲をもっている。

研修や同僚教職員から積極的に学び、校内の課題に対して当事者意識を持って対応している。

保護者や地域の人々、心理や福祉等の外部専門家との連携・協働を意識し、機会を捉えて実践している。

教育的ニーズに応じた指導法を同僚教職員と共有し、校種間で共有した情報を効果的に活用している。

自身の高めた能力を効果的に発揮して、同僚教職員と協力して子どもの指導にあたっている。

学校全体の課題に挑戦し、その解決に向けて積極的に取り組んでいる。

経験の浅い教職員にメンター的役割を果たし、教職員集団の成熟に努めている。

保護者や地域の人々、心理や福祉等の外部専門家と学校との相互理解を図り、組織的に連携・協働している。

学校全体の教育的ニーズを把握するとともに、校種間連携の主体となり、組織的に子どもの支援を推進している。

自身の能力にさらに磨きをかけ、これを活用して組織を動かす、学校運営を円滑に進めている。

新たな教育課題を理解し、学校における組織的な取り組みをけん引している。

教育力の継承に向けて、OJTの推進を図るとともに、企画・調整の力を発揮して、組織をまとめている。

保護者や地域とネットワークを築き、地域に根ざした学校づくりを行っている。

人格的資質・情熱

教職員としての人格的資質・教職への情熱

【養成期から発展期までのすべての時期に共通して身に付けるべき項目】

子どもの人権に関わる諸課題について問題意識をもち、家庭・地域や関係機関、異校種の学校等と連携しながら人権教育を推進している。

- 豊かな人間性と社会性、高い対人関係能力とコミュニケーション能力をもっている
- 子どもへの教育的愛情と責任感、教職に対する使命感と誇りをもっている
- 高い倫理観をもち、公平・公正に行動できる
- 変化に対応し、学び続ける向上心をもっている

社会人としてのマナーを身に付け、他者を共感的に理解している。

子どもに対する愛情と、教職に対する使命感や情熱をもっている。

教育公務員として必要な法令や規則を知り、法令遵守を理解している。

自ら学ぶ姿勢をもち、必要な情報を収集し、身に付けている。

社会人として必要な人間性を有し、他者との信頼関係を築いている。

教育的愛情と責任感、教職に対する使命感と誇りをもち、子どもの成長をイメージしながら指導している。

教育公務員としての使命を自覚し、法令や規則を遵守して、不祥事防止に努めている。

日々の教育活動を振り返り、自己研鑽に努め、自主的に学び続けている。

教職員間の円滑なコミュニケーションを促進し、活力ある組織をつくっている。

使命感と誇りを同僚教職員と共有し、組織的に子どもを支援している。

危機管理意識をもち、不祥事防止に関して同僚教職員の模範となっている。

日々研鑽に努め、その成果を同僚教職員にも広げている。

風通しのよい職場環境を築き、組織的に教育力の向上を図っている。

子どもの成長を第一に考え、学校運営において先導的役割を果たしている。

高い危機管理意識をもち、不祥事防止や事故等発生後の対応に組織的に取り組んでいる。

子どもや社会の変化を意識し、広い視野をもって学校づくりを行っている。

校長

◆ めざすべき校長像については、「学校経営力」を加えます。
 ※ 副校長、教頭には、校長の校務を補佐する役割として、校長に準じる役割が求められます。

学校経営力

専門家集団をチームとしてまとめる学校経営の実践

- 教育者としての強い使命感に基づくゆるぎない信念をもち、「かながわ教育ビジョン」の理念のもとに設定した学校教育目標の実現に向けて教職員をまとめ、指導している。
- 教職員や組織の適切な管理監督を行っている。
- 教職員個々のキャリアプランを見通し、教職員一人ひとりの意欲向上・人材育成に資する指導・助言を行っている。
- 開かれた学校づくりに向け、保護者や地域の方の意見を把握するとともに、学校に対する要望の実現に向けて努力している。
- 学校事故などの不測の事態に対し、強いリーダーシップをもって迅速かつ適切に、そして組織的に対応している。
- 適正な学校評価の実施に努め、評価結果を踏まえ、不断の学校運営の改善と発展を図っている。

【養成期】 出会い、学ぶ

【開発期】 学び、高める

【充実期】 広げ、分かち合う

【発展期】 伝え、支える

養護教諭

◆ 「課題解決力」と「人格的資質・情熱」のほかに、「授業力」に代えて、保健管理と保健指導に必要な専門的な力である「専門力」を加えます。

専門力

子どもに寄り添い、子どもの心身を守る学校保健活動の実践

【養成期から発展期までのすべての時期に共通して身に付けるべき項目】

「リキョウ・マボ」を踏まえた「心身の健康の保持増進及び現代的な健康課題の解決」の実現に向けた学校保健について理解を深め、ICTや情報・教育データ等を効果的に用いながら実践している。

- 保健管理と健康相談に必要な知識や技能を理解している。
- 子どもの実態に応じた保健指導について理解している。
- 保健に係る集団指導について、子どもが互いに協力し合える指導法を理解している。
- 学校保健計画や保健室経営計画、学校保健活動の基本を理解している。

- 適正な保健管理と子どもに寄り添った健康相談に取り組んでいる。
- 子どもの実態を把握し、適切な保健指導を実践している。
- 子どもの個性を理解し、保健に係る集団指導を実践している。
- 学校保健計画作成の中心となり、学校保健活動を円滑に実施し、評価している。

- 保健管理と健康相談の結果を同僚教職員と共有し、校内の学校保健活動や教育相談活動の充実を図っている。
- 適切な保健指導を実践し、子どもの健康と成長を支えている。
- 同僚教職員と協力し、保健に係る集団指導を実践している。
- コーディネーター的な役割をもち、同僚教職員と学校保健活動全体をけん引している。

- 保健管理と健康相談を踏まえた協力・連携のもと、円滑な学校運営に寄与している。
- 適切な保健指導を実践し、子どもの主体的な健康づくりにつなげている。
- 保健に係る集団指導を通じて、様々な学校活動を活性化している。
- より充実した学校保健活動に向け、同僚教職員の円滑な参画を促している。

栄養教諭

◆ 「課題解決力」と「人格的資質・情熱」のほかに、「授業力」に代えて、給食管理と食に関する指導に必要な専門的な力である「専門力」を加えます。

専門力

健やかな心身と豊かな人間関係を育む食に関する指導の実践

【養成期から発展期までのすべての時期に共通して身に付けるべき項目】

「リキョウ・マボ」を踏まえた食に関する指導と給食運営の管理を一体のものとして展開することについて理解を深め、ICTや情報・教育データ等を効果的に用いながら実践している。

- 給食管理や食に関する指導に必要な基本的知識や技能を理解している。
- 子どもの現代的な健康課題を理解し、その対応に必要な専門性を理解している。
- 学校における食育の中核的な役割としての重要性を理解している。

- 給食管理や食に関する指導に必要な知識や技能を身に付け、常に学び続けている。
- 子どもの現代的な健康課題を理解し、その対応に必要な専門性を発揮している。
- 学校における食育での中核的な役割を理解し、取り組んでいる。

- 子どもの現状と課題を踏まえ、給食管理に加えて、学校教育活動の一環として食に関する指導を展開するため、校内で中核的な役割を果たしている。
- 社会変化に対応し、最新の食に関する知見を収集し、学校における食育の推進を果たしている。

- 給食管理や食に関する指導について、主体的に学校運営に関わる意識や実践的指導力をより一層高めている。
- 学校内外の関係者と連携し、食育推進のコーディネーターとして中核を担っている。



神奈川県

教育委員会教育局行政部教職員企画課

横浜市中区日本大通 1 〒231-8588

電話 (045) 210-8187 (直通)

FAX (045) 210-8938

http://www.pref.kanagawa.jp/div/4003/

令和 年 月 日

神奈川県教育委員会教育長 殿

大学名
職・氏名

印

令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験における
大学推薦制度にかかる推薦書等について（提出）

このことについて、次のとおり提出します。

- 1 推薦する学生（院生）（※推薦の区分、学部・学科、氏名を記載してください。）
- 2 提出書類
 - (1) 送付状（※本紙を参考に作成してください。）
 - (2) 推薦書
 - (3) 成績証明書
 - (4) （※中学校・高等学校外国語（英語）教員区分ならびに教職大学院区分または障がい者区分において中学校・高等学校外国語（英語）を希望する者）要領4 推薦の基準(3)ウを証明する書類の写し
 - (5) 論文用紙
 - (6) 受験申込書
 - (7) 受験者カード
 - (8) 返信用封筒
 - (9) （※障がい者区分のみ）障害者手帳等の写し
- 3 問合せ先
 - ・担当部署名
 - ・担当者名
 - ・郵便番号、住所
 - ・電話番号
 - ・ファクシミリ番号

大学

学長（学部長、院長）



推薦書（大学推薦制度）

令和8年4月1日採用 神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験 大学推薦制度について、次の者が神奈川県公立学校教員を第1希望とし、推薦の基準を満たしていると認められますので推薦します。

区分 (該当する区分に○印を書き、校種等・教科を括弧内に記入してください。)	1 小学校 教員	2 理科、英語に 優れた 小学校教員	3 中学校 美術・技術・家庭 教員	4 中学校・高等学校 外国語（英語） 教員	5 特別支援 学校教員	6 教職 大学院	7 障がい者	
	校種等・教科（科目）（ ）							
ふりがな 氏名				生年 月日	西暦	年	月	日生
				卒業（修了） 年月日	西暦	年	月	日 卒業（修了）見込

○人物に関する事項

評価項目	評価内容
教育に対する熱意と使命感	
児童・生徒に対する理解	
豊かな人間性と人間関係能力	

○学業に関する事項（教職関連科目や教育実習の状況等）

--

○その他参考となる事項（神奈川県への志望理由等）

（※障がい者区分については、障がいにかかる配慮事項も記載すること）

--

記載責任者 職・氏名	連絡先
------------	-----

令和8年4月1日採用
神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験

受験申込書

(大学推薦用)

※第1次	※第2次	※実技

校種等・教科				※受験番号

選考区分(番号を1つ○で囲む)							校種等(記号を1つ○で囲む)					教科(BCの受験者のみ)	
特別選考(大学推薦)							小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	養護教諭	栄養教諭	科目(O地理歴史、理科の受験者のみ)
小学校	小学校(理英)	中(美・技・家)	中・高(英語)	特別支援学校	教職大学院	障がい者							
1	2	3	4	5	6	7	A	B	C	D	E	F	

ふりがな		生年月日	西暦 年 月 日生	写真貼付欄 1 申込みの際に、写真を貼ってください。 2 写真は、申込み前3ヶ月以内に撮影した、縦4cm、横3cm、上半身脱帽、正面向きのものがが必要です。 3 写真の裏面に必ず氏名校種等・教科を記入してください。
氏名		年齢	2026年4月1日現在 歳	
ふりがな				
現住所	〒	【必須】電話番号① () - 【任意】電話番号② () -		
上記の現住所で連絡がとれない場合の連絡先	〒	【任意】電話番号① () - 【任意】電話番号② () -		

最終学歴	学校名:	学部(研究科):	学科(専攻):	西暦 年 月 日 卒業(修了)・卒業(修了)見込
------	------	----------	---------	--------------------------

受験する校種等 教科の免許状	校種等	種類	教科	取得(見込)年月	取得状況
					西暦 年 月
				西暦 年 月	取得・見込

【中学校(保健体育)、高等学校(保健体育)の受験者のみ】

<保健体育実技試験 種目について>
種目は「バスケットボール」「柔道」「マット運動」「水泳(クロール及び平泳ぎ)」となります。
右の表の性別に○をしてください。

性別(○で囲む)	
男	女

【懲戒処分歴】

必ず有無のいずれかに○をつけ、「有」の場合は懲戒の種類等を記入すること

有 無	年(西暦)	月	懲戒の種類等	発令者
有 無				

私は、要領に掲げてある推薦の基準をすべて満たしており、学(部)長からの推薦を受けました。この申込書で希望した神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験を受けたいので申し込みます。

なお、この申込書の記載事項に相違なく、本試験の結果等の情報を、出身大学に提供することについて同意します。

(この欄は、自筆で記入してください。)

西暦 年 月 日

氏名

(自筆署名)

○ 神奈川県内(横浜市、川崎市及び相模原市を除く)の市町村立の小学校、中学校及び特別支援学校並びに神奈川県立の高等学校、中等教育学校及び特別支援学校での臨時的任用職員及び非常勤講師の登録依頼のために、私の個人情報(氏名・住所・電話番号・所有教員免許状等)を提供することについて

(同意する・同意しない)

※「同意する」に○をつけた方には、必要に応じて登録手続のための連絡をすることがあります。

〈〈 受験申込書等記入要領 (大学推薦制度用) 〉〉

- 1 ※欄は、記入しないでください。また、該当する項目は、○で囲んでください。
- 2 記入は、ペンかボールペン (黒又は青インク) を用い、楷書で記入してください。
- 3 「校種等・教科」欄は、「受験者カード記入例」の校種等・教科コード表を参照して、4桁の数字で記入してください。
- 4 「選考区分」欄の該当番号は、1つだけ○で囲んでください。
- 5 「校種等」欄は、該当する校種等のアルファベットを1つだけ○で囲んでください。
「教科」欄は、中学校及び高等学校の場合のみ記入してください。
「科目」欄は、高等学校の地理歴史と理科の場合のみ記入してください。
- 6 「年齢」欄は、採用時 (令和8 (2026) 年4月1日現在) の年齢を記入してください。
- 7 「最終学歴」欄は、卒業 (修了) 又は卒業 (修了) 見込みの短大・大学・大学院名と学部 (研究科)・学科 (専攻等) 名を記入し、卒業 (修了) 又は卒業 (修了) 見込の別を○で囲んでください。
- 8 「受験する校種等・教科の免許状」欄は、受験する校種等・教科の免許状について先に取得したもの (取得予定のもの)の校種等、種類、教科及び取得 (見込) 年月を記入し、取得・見込の別を○で囲んでください。
※ 「理科、英語に優れた力量をもつ小学校教員」区分については、小学校教諭免許状の取得状況及び、中学校又は高等学校教諭免許状 (理科又は外国語 (英語)) の取得状況を記入してください。
※ 「中学校・高等学校外国語 (英語) 教員」区分及び「中学校 (美術・技術・家庭) 教員」区分については、中学校教諭免許状 (外国語 (英語)・美術・技術・家庭) 又は高等学校教諭免許状 (外国語 (英語)) 取得状況を記入してください。
※ 複数免許の取得が条件になっている教科 (高等学校 地理歴史・公民) については、もう一つの欄にも記入してください。

《記入例》

小学校	1種		特別支援学校	1種	
中学校	専修	保健体育	高等学校	専修	理科

- 9 「懲戒処分歴」欄は、必ず有無のいずれかに○をつけ、「有」の場合は懲戒の種類等を記入してください。
- 10 署名欄に自筆署名してください。自筆署名できない場合は、その理由、代筆者の氏名及び受験申込者との続柄を任意の様式に記入のうえ、押印し、受験申込書に添付してください。
- 11 登録依頼等のための個人情報の提供について、「同意する」又は「同意しない」の別を○で囲んでください。
- 12 受験申込書の写真貼付欄に貼る写真は、申込み前3ヶ月以内に撮影した、縦4cm、横3cm、上半身、脱帽、正面向きのものを、裏面に氏名、校種等・教科を記入してから貼ってください。受験票への貼付用と第2次試験用に同一の写真がさらに2枚 (計3枚) 必要になります (各自保管)。
- 13 中学校 (保健体育)、高等学校 (保健体育) の受験者の第2次試験の実技試験種目は、「バスケットボール」「柔道」「マット運動」「水泳 (クロール及び平泳ぎ)」となります。また、該当する性別を○で囲んでください。
- 14 「受験者カード記入例」に従って、「受験者カード」の太線の枠内のみ鉛筆で楷書でていねいに記入してください。

- ◎ 申込記載事項が正しくないことが明らかになった場合は、合格を取り消すことがあります。
- ◎ 日本国籍を有しない人は、任用期限を付さない常勤講師としての採用となります。

7 受験者カード

(令和8年4月1日採用 大学推薦用)

・記入例に従って、太線の枠内のみ鉛筆で楷書でいねいに記入してください。

C#		校種等・教科				※受験番号			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
G	A								

氏名(漢字で記入)			
姓		名	
11	20	21	30

氏名(カタカナで記入。濁点(゜)、半濁点(゜)は1字として扱う)																										
姓	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	名	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55

生年月日							
年(西暦)				月		日	
56	57	58	59	60	61	62	63

最終学校コード					最終学校名				
64	65	66	67	68	69				104

最終学校		卒業(修了)年月							
(ア)	(イ)	年(西暦)				月			
学校	卒業	105	106	107	108	109	110	111	112

都道府県	
113	114

受験者カード記入例

7 受験者カード

(令和8年4月1日採用 大学推薦用)

・記入例に従って、太線の枠内のみ鉛筆で楷書でいねいに記入してください。

C#		校種等・教科				※受験番号			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
G	A	1	0	1	2				

下欄の校種等・教科コード表から、4桁の数字で記入してください。

氏名(漢字で記入)			
姓		名	
11	20	21	30
神奈川		一平	

漢字で姓名をそれぞれ記入してください。

氏名(カタカナで記入。濁点(゜)、半濁点(゜)は1字として扱う)																										
姓	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	名	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55
	カナ	ナ	カ	カ	ワ							イ	ツ	ヘ	。	イ										

生年月日は、西暦で記入してください。
(例)平成15年9月2日生まれの場合は、「20030902」となります。
和暦と西暦の対応は、下欄の表を参考にしてください。

生年月日							
年(西暦)	月	日					
57	58	59	60	61	62	63	
2	0	0	3	0	9	0	2

最終卒業(修了)学校名を受験者カード裏面の学校コード表から選び、コード番号を5桁の記号で記入してください。
学校コード表に該当する学校名がない場合は、「99999」と記入してください。
また、学歴が複雑で最終卒業学校が特定できない場合も「99999」と記入してください。

- 最終学校の学校欄は次の1~9の区分から1つ選び、数字で記入してください。
- 1 教員養成課程のある国立大学の教育学部
 - 2 国立大学(1を除く)
 - 3 公立大学
 - 4 私立大学
 - 5 高等学校(大検・高認含む)
 - 6 短期大学
 - 7 指定教員養成機関等
 - 8 大学院等(専攻科含む)
 - 9 その他

最終学校コード					最終学校名	
64	65	66	67	68	69	104
A	0	0	3	4	横浜国立大学	

最終学校(7)	(4)	卒業(修了)年月				都道府県	
学校	卒業	年(西暦)	月				
105	106	107	108	109	110	111	112
1	2	2	0	2	6	0	3
						1	4

最終卒業(修了)学校名を記入してください。

- 最終学校の卒業欄は次の1~2のどちらかの数字を記入してください。
- 1 卒業(修了)
 - 2 卒業(修了)見込

卒業(修了)年月を西暦で記入してください。
(例)2026年3月見込 → 「202603」

下欄の都道府県コード表から、自宅のある都道府県名コードを2桁の数字で記入してください。大学等で実家を離れている場合には、実家のある都道府県名コードを記入してください。

校種等	教科	コード
小学校	小学校全科	1012
	国語	2102
	社会	2202
	数学	2302
中学校	理科	2402
	音楽	2512
	美術	2522
	保健体育	2542
	技術	2552
	家庭	2562
	英語	2602
特別支援学校		4011
養護教諭		5042
栄養教諭		6052

校種等	教科	コード
高等学校	国語	3101
	地歴・公民(公民)	3221
	地歴・公民(日本史)	3251
	地歴・公民(世界史)	3261
	地歴・公民(地理)	3271
	数学	3301
	情報	3311
	理科(物理)	3411
	理科(化学)	3421
	理科(生物)	3431
	音楽	3511
	美術	3521
	保健体育	3541
	家庭	3561
英語	3601	

都道府県名	コード
北海道	01
青森県	02
岩手県	03
宮城県	04
秋田県	05
山形県	06
福島県	07
茨城県	08
栃木県	09
群馬県	10
埼玉県	11
千葉県	12
東京都	13
神奈川県	14
新潟県	15
富山県	16
石川県	17
福井県	18
山梨県	19
長野県	20
岐阜県	21
静岡県	22
愛知県	23
三重県	24

都道府県名	コード
滋賀県	25
京都府	26
大阪府	27
兵庫県	28
奈良県	29
和歌山県	30
鳥取県	31
島根県	32
岡山県	33
広島県	34
山口県	35
徳島県	36
香川県	37
愛媛県	38
高知県	39
福岡県	40
佐賀県	41
長崎県	42
熊本県	43
大分県	44
宮崎県	45
鹿児島県	46
沖縄県	47
外国	99

和暦	西暦
昭和64年	1989年
平成元年	1989年
平成2年	1990年
平成3年	1991年
平成4年	1992年
平成5年	1993年
平成6年	1994年
平成7年	1995年
平成8年	1996年
平成9年	1997年
平成10年	1998年
平成11年	1999年
平成12年	2000年
平成13年	2001年
平成14年	2002年
平成15年	2003年
平成16年	2004年
平成17年	2005年
平成18年	2006年
平成19年	2007年
平成20年	2008年
平成21年	2009年
平成22年	2010年
平成23年	2011年
平成24年	2012年
平成25年	2013年
平成26年	2014年
平成27年	2015年
平成28年	2016年
平成29年	2017年
平成30年	2018年
平成31年	2019年
令和元年	2019年
令和2年	2020年
令和3年	2021年
令和4年	2022年
令和5年	2023年
令和6年	2024年
令和7年	2025年
令和8年	2026年

学校コード表

○該当する学校コードがないときは、「99999」を記入してください。
 ○高等学校、専門学校等を卒業の人は、「99999」を記入してください。
 ○大学院等修了(見込)の人は、同一大学名の学校コードを記入してください。

大 学		し 芝浦工業大学	A2069	と 東洋英和女学院大学	A2394
あ 愛知大学	A2165	柴田学園大学(旧東北女子大学)	A2013	徳島文理大学	A2270
愛知学院大学	A2167	島根大学	A0060	獨協大学	A2040
愛知教育大学	A0044	秀明大学(旧八千代国際大学)	A2410	鳥取大学	A0059
愛知淑徳大学	A2301	淑徳大学	A2043	富山大学	A0036
青山学院大学	A2051	順天堂大学	A2070	な 長崎大学	A0073
秋田大学	A0012	松蔭大学	A2241	名古屋大学	A0043
麻布大学	A2346	上越教育大学	A0089	名古屋外国語大学	A2396
亜細亜大学	A2052	城西大学	A2037	奈良教育大学	A0056
い 茨城大学	A0015	上智大学	A2071	鳴門教育大学	A0095
岩手大学	A0009	湘南工科大学	A2338	南山大学	A2182
う 宇都宮大学	A0017	昭和音楽大学	A2337	に 新潟大学	A0035
え 愛媛大学	A0066	昭和女子大学	A2073	二松學舎大學	A2115
お 桜美林大学	A2055	女子栄養大学	A2075	日本体育大学	A2123
大阪大学	A0051	女子美術大学	A2076	日本大学	A2116
大阪大谷大学	A2216	せ 信州大学	A0040	日本教育大学院大学	A2373
大阪教育大学	A0053	成蹊大学	A2079	日本女子大学	A2121
大阪経済大学	A2205	星槎大学	A2388	日本女子体育大学	A2122
大阪市立大学	A1018	成城大学	A2080	日本福祉大学	A2183
大阪体育大学	A2213	清泉女子大学	A2082	は 白鷗大学	A2351
大阪府立大学	A1019	聖徳大学	A2343	ひ 兵庫教育大学	A0097
大阪公立大学	A1017	専修大学	A2084	弘前大学	A0008
大妻女子大学	A2054	洗足学園音楽大学	A2149	広島大学	A0062
岡山大学	A0061	そ 仙台大学	A2018	ふ フェリス女学院大学	A2152
岡山理科大学	A2253	た 創価大学	A2085	福井大学	A0038
お茶の水女子大学	A0031	大正大学	A2086	福岡大學	A2283
か 学習院大学	A2056	大東文化大学	A2087	福岡教育大学	A0068
鹿児島大学	A0077	高千穂大学	A2088	福島大学	A0014
鹿児島国際大学	A2295	拓殖大学	A2089	佛教大学	A2199
神奈川大学	A2142	玉川大学	A2090	文化学園大学	A2413
神奈川県立保健福祉大学	A1078	ち 多摩美術大学	A2091	文教大学	A2315
神奈川工科大学	A2341	千葉大学	A0020	ほ 法政大学	A2126
金沢大学	A0037	中央大学	A2092	放送大学	A2404
鹿屋体育大学	A0096	中京大学	A2173	北翔大学	A2411
鎌倉女子大学	A2145	つ 中部大学	A2175	北海道大学	A0001
関西大学	A2218	筑波大学	A0016	北海道教育大学	A0002
関西外国語大学	A2220	津田塾大学	A2093	み 三重大学	A0046
関西学院大学	A2232	都留文科大学	A1007	宮城学院女子大学	A2024
関太平洋大学	A2382	て 鶴見大学	A2150	宮城教育大学	A0011
関東学院大学	A2144	帝京大学	A2094	宮崎大学	A0076
き 畿央大学	A2369	帝京科学大学	A2390	宮崎公立大学	A2406
北里大学	A2057	帝京平成大学	A2357	む 武蔵大学	A2128
岐阜聖徳学園大学	A2348	田園調布学園大学	A2391	武蔵野大学	A2131
九州大学	A0069	電気通信大学	A0032	武蔵野音楽大学	A2130
京都大学	A0048	と 天理大学	A2249	武蔵野美術大学	A2132
京都外国語大学	A2187	桐蔭横浜大学	A2331	め 明治大学	A2133
京都教育大学	A0049	東海大学	A2095	明治学院大学	A2134
京都産業大学	A2189	東海学園大学	A2372	名城大学	A2184
京都女子大学	A2190	東京大学	A0021	明星大学	A2136
共立女子大学	A2058	東京音楽大学	A2097	目白大学	A2407
杏林大学	A2060	東京外国語大学	A0023	も 盛岡大学	A2342
近畿大学	A2332	東京海洋大学(旧水産・商船)	A0029	や 山形大学	A0013
く 国立音楽大学	A2061	東京学芸大学	A0024	山口大学	A0063
熊本大学	A0074	東京家政大学	A2098	山梨大学	A0039
群馬大学	A0018	東京家政学院大学	A2099	よ 横浜国立大学	A0034
け 慶應義塾大学	A2062	東京経済大学	A2100	横浜商科大学	A2153
こ 工学院大学	A2063	東京藝術大学	A0026	横浜市立大学	A1005
皇學館大学	A2185	東京科学大学(旧東京工業・旧東京医科歯科)	A0028	り 立教大学	A2137
高知大学	A0067	東京工芸大学	A2151	立正大学	A2138
甲南大学	A2234	東京女子大学	A2103	立命館大学	A2200
神戸大学	A0054	東京女子体育大学	A2105	琉球大学	A0078
國學院大學	A2064	東京造形大学	A2107	龍谷大学	A2347
国際武道大学	A2334	東京電機大学	A2108	わ 和光大学	A2139
国土館大学	A2066	東京都市大学	A2414	早稲田大学	A2140
駒沢大學	A2067	東京都立大学(旧首都大学東京)	A1004	短期大学	
さ 埼玉大学	A0019	鎌倉女子大学短期大学部	A2109	鎌倉女子大学短期大学部	B3365
佐賀大学	A0072	昭和音楽大学短期大学部	A2370	昭和音楽大学短期大学部	B3368
相模女子大学	A2147	昭和女子大学短期大学部	A2111	昭和女子大学短期大学部	B3301
産業能率大学	A2350	帝京短期大学	A2195	帝京短期大学	B3316
し 滋賀大学	A0047	同志社大学	A0010	東海大学短期大学部	B3318
至学館大学	A2415	東北大学	A2019	横浜美術短期大学	B3374
静岡大学	A0042	東北学院大学	A2019	その他	
実践女子大学	A2068	東北福祉大学	A2021	横浜高等教育専門学校	C6503
四天王寺大学	A2336	東洋大学	A2114		